

2023年1月 創刊号

Begg naa Sports

法人格取得！！

車いすバスケットボールパラリンピック
元日本代表選手である神保康広さんが
セネガルへ！！



WITH
PEER





目次

2

ごあいさつ

初回発行にあたり、代表から思いや これからのビジョンについて語ります！

3

ブラインドフットボール

どんなスポーツ？誰でもできるの？
すべての質問にお答えします！

5

ボッチャ

ボッチャの魅力をとことんお伝え！
セネガルでの活動もご紹介！

7

車いすバスケットボール

バスケットボールパラリンピック
元日本代表選手である神保康広さんが
セネガルへ！！（インタビューあり！）

14

セネガルのおはなし

セネガルを身近に感じてもらえたらいいな～。
そんな思いをお話にしてみました。

15

活動ほうこく

ごあいさつ



共同創設者：左近浩太郎



平素は皆さまのあたたかいご支援とご協力をありがとうございます。
2018年秋頃にひとり構想を練りはじめ、2019年年末から松尾（現代表理事）に声をかけて具体的に検討を開始し、そして2020年4月に任意団体として立ち上げた当団体ですが、おかげさまで昨年11月、一般社団法人化することができました。2020年4月の設立と時を同じくして新型コロナウイルスのパンデミックによりセネガル現地での活動を開始する直前に中止せざるを得ないという経験を2度しました。それでもセネガルに行けずとも、日本でオンラインでもできることとして、他団体と協力しながらオンラインイベントを通じて、セネガルの魅力や、スポーツの魅力を発信してきました。

2022年2月からは、ようやく現地活動を開始することができました。2年間セネガル現地には渡航できませんでしたが、日本から連絡を取り合っていた現地パートナーからは、「渡航できなくてもセネガルのことをずっと考えてくれていたことが嬉しかった。だからこそ一緒にやりたい。」と心に響く言葉をいただき、この言葉を胸に現地での活動を続けてまいりました。2022年11月からは、JICA基金を活用した本格的な活動を開始しています。SNS等でも活動は発信していますが、このマガジンでは、現地セネガルで、私たちがどんな人たちとともに、どんな活動をしているのかを現地の障害当事者の声と共に、応援して下さる全ての人に届けたいと思っています。

ところで、私たちの団体名である「WITH PEER」に込めた想いをここでお伝えできればと思います。「PEER（ピア）」を辞書で引けば、(年齢・社会的地位などが)同等の人、同輩、友達という意味が載っています。そこから派生して「障害当事者」という意味でも使われていますが、私たちは「PEER」に、「共に体験し、お互いを共感的に理解し学び合う当事者/仲間/みんな」という意味を込めました。個人の属性（例えば、機能的な障害の有無、性、国籍、民族、社会的地位等）によらず、1人ひとりが「障害ってなんだろう」「共生社会ってなんだろう」と、共に学び、行動していきたいと思っています。その意味で、応援して下さる皆さんもまた「PEER（ピア）」であり、今これを読んでくださっている皆さんと共に、さらに充実した活動を展開していけるよう今後も邁進してまいります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

共同創設者
代表理事：松尾雄大



ブラインド フットボール

ブラインドフットボールとは？



“

「ブラインドフットボール」は、
いわゆる「見えないサッカー」。

”



ブラインドフットボールの試合の風景

ゴールキーパー以外の4人のフィールド
プレイヤーは全盲の選手で、アイマス
クを装着し、音の出るボールを用いて
プレーします。



子どもたちの練習風景

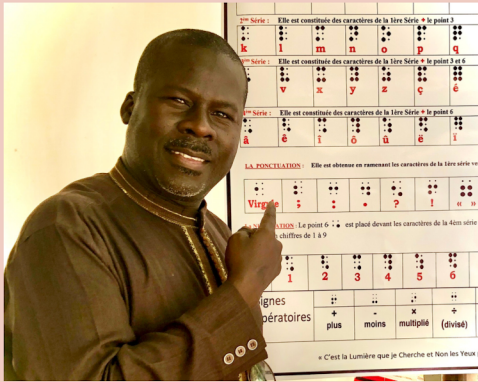
どこにボールがあるか、ゴールがあるか、
味方や敵が近くにいるのかいないのか、
ドリブル？パス？シュート？等の情報は
ゴールキーパーやコーチ等、「見えている」
人たちが伝えます。

そのため、「声」が非常に重要になる、
コミュニケーションが、勝敗を分けるほど
大事です。



2021年に開催されたパラリンピックでは日本代表が初出場で5位となり、話題になりました。日本は2022年段階で国際ランキング4位ですが、セネガルはランキング圏外となっています。セネガルでもサッカーは人気競技ですが、ブラインドフットボールの競技人口、競技力、マネジメント能力などは、これからの成長が期待されます。

パートナー紹介



アリさん (Aly DIA)

- ・ブラインドフットボールセネガル代表監督
- ・視覚障害児向けインクルーシブ教育プログラムコーディネーター
- ・セネガル視覚障害者スポーツ協会事務局長
- ・ティエス市障害者スポーツ協会会長

二人との出会い

2017年、日本のブラインドフットボールの選手がセネガルに渡航し、JICA海外協力隊員と共に視覚障害のない子どもたちに対してブラインドフットボールのワークショップを行いました。そして、この時に出会ったのがアリさんとハディムさんです。彼らとの出会いがWITH PEERの始まりでした！

今までの活動

インクルーシブ学校と国立盲学校を拠点とし、セネガル代表キャプテンのハディム選手（後述）と週6回練習を実施して、累計で500名以上が参加しています。練習に参加することで技術の向上だけでなく身体の動かし方がスムーズになったり、関わるコミュニティが広がったりと、参加前に比べていい変化がもたらされている選手が一定数います。WITH PEERとしてブラインドフットボールに欠かせないアイマスクやボールなど最低限必要な備品を提供していますが、ブラインドサッカーをするには厳しい環境のため、日本から持参したボールが3か月で全てパンクするというアクシデントもありました。また、ブラインドフットボールの試合に必要なフェンスがないため、設置に向けても動き出しています。選手を増やし、育成することが継続する上で大切になってきますが、それらを全て現在関わっているメンバーだけで行うのではなく、指導者を増やして少しずつ規模を大きくすることも求められています。そこで、ブラインドフットボールのコーチを対象にした指導者用ガイドの製作も行いました。ブラインドフットボールのプレイヤーである視覚障害者は、教育・就労・職業訓練の機会が乏しく、地域のコミュニティとの接点が少ない状態が続いています。そのことが、当事者の自己肯定感の低さや、家族・周辺で暮らす人々の理解が進んでいない社会の一因にもなっています。ブラインドフットボールがそのような状態を改善するためのきっかけとなっていけるように、これからも指導普及・環境の整備に力を入れていきます。（羽立）

課題はたくさんあります。

日本人やセネガル人、またいろいろな方からサポートをしてもらいながら、アリさんやハディムさんと一緒に活動を進めていきます。

ハディム



ハディムさん (Khadim FALL)

ハディムさんは、ブラインドフットボールセネガル代表キャプテンで彼自身も全盲です。普段はマッサージ師として働きながら、インクルーシブ学校や盲学校での練習に指導者としても携わっています。国の代表選手である彼のような存在と日常的に関われるのは盲学校に通う生徒たちにとって大きな刺激となっています。また、ハディムさんがロールモデルとなるよう、視覚障害者の就労についても関係者と議論をし、少しずつ取り組みを始めています。

ボッチャ

ボッチャとは



“

子どもから高齢者まで幅広く、
障害の有無関係なく、どんな人でも楽しむ
ことができるスポーツ！！

”



肢体不自由者の通所の作業所や職業訓練校で体験会をしています。

ボッチャを皆さんご存じでしょうか。

ボッチャという競技は元々、

脳性まひの方など四肢重度機能障害者のために考案された
スポーツですが、今ではだれでも挑戦できるスポーツとして

性別、年齢、障害の有無にかかわらず、

多くの人から楽しまれている、

パラリンピックの正式種目の一つです。

ルール

ルールはいたって単純！！

ジャックボールという白いボールに
向かって、赤・青のそれぞれ6球ずつの
ボールを投げたり、転がしたり、
他のボールに当てたりして、
いかに近づけるかを競います。

ボッチャは重度障害者がやるスポーツという
イメージがありますが、実はそうでもないの
です。体だけではなく、頭も使う頭脳戦でも
あるボッチャは魅力の詰まったスポーツなの
です！

障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）という球を転がすスロープを使い、自分の意思を介助者に伝えると介助者が代わりにボールを投げしてくれます。ボッチャの面白いところは、男女の区別がないところです。種目は個人戦と団体戦とありますが、どちらも男女で分けることはありません。

※正式競技を現地に合わせて簡易ルールで実施しています。

ボッチャのボールは高級品!?



ボッチャのボール作りの様子

実はボッチャ公式ボールセット一式購入するとなると数万円してしまいます。セネガルでは高級品です。そのため、既製品を買うのではなく、自分たちで作れば良いではないか！ということで、革製品の切れ端とビニール袋に靴下を使ってボールを一から手作り。工房で出た革製品のクズを大量にもらい、それらを水に濡らして粘りを持たせてから、スーパーのビニール袋に入れて押し固める。最後に赤と青の靴下を適度な長さに切って被せ縫いし完成。作業所の人たちと何度も試行錯誤を繰り返しながらようやくとどろき着いた傑作です。

セネガル発!! ボッチャ体験会

2022年5月にはじめてセネガルでボッチャ体験会を開催しました。肢体不自由と健常者、子供から大人までが参加したこの体験会ですが、驚くほど評判がよく、気づいたら2時間ぶっ通しでボッチャをしていました。ボッチャを経験

した人たちの口からは「すごく楽しい!」「ここでチームを作りたい!」「どうやったらうまくなるの?」「どんな場所でやるのがいいの?」「パラリンピックに出たい!」とうれしい意見ばかり。実はセネガルには、ペタンクというボッチャに似たスポーツがあります。ペタンクはフランス発祥ということ、ボッチャよりも安価に始められるということから、セネガルでも知られています。ですが、セネガルではペタンクは「障害者のスポーツ」という考えが強く根付いているため、やったことある人は多くありませんでした。その中ボッチャをやった感想がポジティブな意見ばかりだったことは大変うれしいことです。(尾崎)



ボッチャ体験会の様子

パートナー紹介



アブドゥライさん
(Abdoulaye Mbaye)

車いす バスケットボール

車いすバスケットボールとは？



“

車いす同士が激しく衝突しながら
ボールを奪い合うこの競技は、
ドキドキとハラハラが止まらない非常に
魅力的なスポーツ！！”

”



実はこの記事を執筆している私、
今回の歴史的快挙をきっかけに車いすバスケットボールに関心を持ち始めたんです！

車いすバスケットボールは、どのような競技なのでしょう。体の下半身に障害を持つ選手が車いすに乗って行われるバスケットボール。一般のバスケットボールとほとんどルールは変わらず、なんとゴールの高さもコートの方さも同じです。そのため、スピードや持久力はもちろん、低い位置からシュートを打つ正確性が試される競技となっています。一概に下肢の障害と言っても障害の重度は十人十色。軽い障害の選手でメンバーが偏らないように車いすバスケットボールには障害の程度によって1.0点～4.5点まで0.5点刻みで持ち点が与えられ、クラス分けされます。コートに出られる選手は5人。この5人の持ち点の合計点が14.0点以内でなければいけないのです。

初の銀メダル獲得！

東京2020パラリンピックで、
車いすバスケットボール
日本代表がやってくれましたね。

セネガルの車いすバスケが熱い！

バスケットボールパラリンピック
元日本代表選手である神保康広さんが
セネガルへ！！

セネガルへ！

車いすバスケットボール
パラリンピック元日本代表選手
神保康広さん

渡航日程：2022年 4月28日～5月24日

活動内容：セネガルの車いすバスケットボールを視察。共同代表の松尾とセネガルの障がい者との交流をしながら、一緒に活動をしていただきました。



練習風景

車いすバスケットボールパラリンピック元日本代表選手である神保康広さん。車いすバスケットボール支援をティエスという街を中心に行いました。神保さんが現地で競技指導を…と言いたいところですが、一筋縄ではいきませんでした。神保さんが初めてティエスの一番整ったバスケットコート視察した際は、あまりの荒れ果てたコートに愕然。競技練習の際も、プレイヤーの乗っている車いすに驚き。プレイヤーが使っている車いすのほとんどは15-20年前のものだったのです。

消耗や破損がひどく、練習中にフレームが折れ、近所の鉄工所で溶接修理をする車いすもあれば、リアキャスター(※)が破損して別の車いすの部品を無理矢理取り付けたものや、壊れては応急処置をしながらのプレー。まっすぐ走らず、漕いでも抵抗が掛かって進まない、日本なら確実に廃棄処分されるようなものを使いながら練習をしていたのです。松永製作所から寄付していただいた中古部品を使いながら車いすのキャスター交換やチューブ交換、ボルト増し締めなどを行い、何とか転がりを良くしました。これにはプレイヤーも大喜び。ストラップもない競技用車いすでフラフラになりながらも、みんなと楽しく練習を続けていましたが、課題が多く、指導するところまでいかない状況に陥っていました。これらの課題をチーム関係者に話したところ、これからの活動、物品などを渡し、今後も物品を集めて送ることはできるものの、輸送費の捻出が難しい。という新たな問題が。ところが、ティエス市役所に行って、活動の紹介、パラスポーツのこと、車いすバスケットボールのことを話し、市役所が活動に協力してくれることに。物品の輸送費に関しても、市役所で払うことができることになりました。今後も現地の協力のもとWITH PEERの草の根の活動をつづけながら車いすバスケットボールの普及をしていきたいところです。(尾崎)

※リアキャスター：車いすの後ろについている小輪。転倒防止や、シュートするときなどに使用。



荒れ果てたバスケットコート



プレイヤーの車いす



ティエス チームのメンバー

神保康広さん

【略歴】

事故で、車いす生活に。専門学校終了後、民間企業、地方公務員をされた後、車いすバスケットボールのプレーヤとして2年間渡米。帰国後、車いすメーカーAで勤務。マレーシアで車いすバスケットの指導（JICA）。さらに帰国後、車いすメーカーBで勤務。東京2020パラリンピック競技大会の前に、サラリーマンと並行して講演活動を行う（2016年～）

【現在の仕事】

講師・講演業、車いすの販売業、その他色々

「2022年4月末にセネガルに来てくださった神保さんに、特別インタビューを行いました！

初めてのセネガルの地を踏み締めた感想や障害者と接して感じたことなど伺いました。

当事者目線からセネガルを見て、どんな想いを持ったのか、皆様にお届けします。

マガジン編集担当 柚原と松尾がインタビュー！

セネガル渡航を聞いたとき

行ったことがない国にはどこでも行ってみたいし、アフリカだからいやだということもありませんでした。もともとジンバブエに行ったことがあったので、セネガルが活動拠点なんだ〜と思いながら、行ってみてもいいかなと思いました。2021年3月ぐらいに1か月ぐらいセネガルにどうですかの話があったんですが、コロナ(COVID-19)がひどくなってきたので話が流れたんですね。フリーになっていたときだったときだったので、機会を待っていました。

車いすで行くことの抵抗感は？

海外に行ったことはあるので、抵抗感はありませんでした。それに、いつも好奇心が先にくるんです。チャンスがあれば、見てみたい、知っていたいと思うので、行きたいと思いました。行く前はセネガルについてあえて調べなかったの、直前のオンラインイベントで松尾さんから(松尾雄大)はじめてセネガルについて聞きました。

セネガルへ行く前の印象は？

やばいっすよ〜。舗装されてない道も多そうだったし、砂も多いと思ったので、以前行ったジンバブエよりも行きずらそうだなあと思いました。さらさらな砂が多かったらやばいな〜と、どきどきしたのは、覚えていますね。



砂・砂・砂

渡航前の準備

普通の車いすでは無理だなあと考えたので、砂とかじゃりにはまりにくいように、モトクロスやマウンテンバイクで使うようなタイヤと、二回りぐらい大きいキャスターをわざわざ持って行ったんです。でも、セネガルの砂には無力でした。ぜんぜん太刀打ちができないんですよ。

セネガルを振り返る



車いすの修理風景

(松尾) よかったら写真を見ながら振り返りましょう。神保さんに来ていただいて、車いすバスケの練習に参加していただきました。これは修理をしている写真です。神保さんが実際に修理をやって見せているところです。

(神保さん) なつかしい。

(松尾) いろいろやりましたね。調査をしている途中で歩道橋を渡ったりもしました。市場の中が通れなかったりもしましたね。ダカール(首都)では、物乞いしている人にも声かけたりもしましたね。私も写真、久しぶりに見ました。

(神保さん) いろんなことをやったようなやらなかったような。おもしろいと思ったのは、別の誰かに頼まれて松尾さんがやっているわけでもなく、誰かにやらされているわけでもないんです。自分の意思とともにやられていて、求めてくれる人がいるから。僕たち

が何もしなければ始まらない。そういうなかで、松尾さんがセネガルの環境、状況をよくしていくためにいろんなことをやっているところに僕ものっかっていった感じでした。僕もいろいろやるなかで、せっかく行ったので、いろんな物を見たり、吸収したり、学んだりしたいなあと思いながら、セネガルという国を見ながら過ごしたっていう感じでした。でも、なんせ砂が多かったので、だいぶめげそうになった自分がいたのと、だいぶ試された感じはあります。約一か月行って、しんどかったんですけど、やっぱり帰ってくるといつも思うのは、やっぱり行ってよかったなあと思うんです。今となってはいい思い出ですし、また機会があったら是非行って、もう一つステップアップしたような活動に携われたらいいなあって思いますね。



苦勞の歩道橋

活動を振り返る

いろいろなステップやレベルがあると思うんですけど、僕はスポーツを通じてアプローチをするって考えたときには、ちょっとまだまだそこまで行ききれないところがあるというか、生活であったりとか、生活を改善するとか、車イスで外に出られるようにするだとか、スポーツ以前の課題が多かったというのが行って思ったことだったので、いや～これは先の長い道のりだぞっと思ったし、松尾さんがブラインドフット



生活について話を聞く

ボールの活動を主軸にしていくとしたとしても、生きている間にどれくらい改善できるんだろう、どれだけのところまでできるんだろうと思うぐらいでした。大変そうだというのは、どこに行ってもどの人と話してもどんな状況にいてもそれは正直感じました。でも、いつも思うんですけど、大変だったり遅れてるということは、それだけ伸びしろあったり改善しろがあったりするんで、何をするにも悪くなるよりはよくなっていくことのほうが多いので、細かいことをあまり考えず、とにかくやる、関わられることをやっていこうっていう感じで、半ばいい意味で開きなあって、いろんなところに行って、いろんな人にあって、いろんなことを話しました。

セネガル人の印象は？

例えば人間で見ると、ものすごく誠実で一生懸命で、日本人に通ずる、なんか、日本人もなんかほっとするような、うまく説明できないけれど、そういう国民性や文化だったりするのかなあと思いました。だから、行った時にはなじみやすいというか、抵抗感がある国ではなかったし、僕はよかったなあと思いました。そこは、すごく、すごく心地がよかったです。それって僕いろいろなところにちょこちょこ行かせてもらってるんですけど、ドイツとイギリスはけっこう日本人に近いというかフランスはぜんぜん

違うな〜とか。（松尾）笑。

アフリカだと、ジンバブエはちょっと違っただけです。でもセネガルはなんか説明しづらいんですけど、日本人の僕でもなんか心地いい国だった気がしますね。

今でも学校講演なんかで言うんですけど、もともと貧しい国であることは事実だったんですが、日本人のように悲観的にとらえたりする方たちが少なく、貧しいけど前向きに生きているイメージとか、楽しそうに生きている人たちが多くなっていうのは、日本とかよりよっぽどみなさん人間らしいというか、ものすごく人間みがあって、楽しそうに生きているなって思ったりもしたので、なんかそこはすごく、逆に日本にはない雰囲気というか、そういったものを感じてうらやましいな、いいなって思ったりもしました。



砂道で動かなくなった車いすを
押してくれる子どもたち

日本に対して思うことは？

日本の子どもたちは、裕福でお金があっても与えられているけど、心がちょっと満たされていなかったり、人生に対して悲観的に考えてしまっている方が多くなっていうのは、セネガルから帰って来て特に思うんです。講演をするときに、子どもたちにはセネ

ガルの子どもの写真をぼんぼん見せるんですけど、笑顔すごくてきでしょって。こんだだけ大変な生活をしているのに、私たちに持っていない、生きることへの貪欲であって、笑顔をたやさない、そんな人生を送っている人たちがいっぱいいるよって。学ぶことがいっぱいあるよって。世界は広いよって。いろんなところに目を向けてほしいと思うんです。学校に行くと、子供たちは特に打たれ弱く、自分の意見をちょっと認められなかったり、否定されたりするだけでも、もう自分はだめなんだ、生き方を否定されて、閉じこもったり引きこもったりとか、学校に来られなくなったり、自殺したりする子が本当に多いという話をいっぱい聞くんですよ。登校拒否なんか当たり前だし、引きこもりも当たり前だし、そういうやんでいる子が必ず何人かはいるんですよ。それはすごく残念なので、そこは少しでもとらえ方を変えてもらうために、セネガルの人たちの話をするんです。何か気づきを与えたいし、反対にセネガルの人たちには、自分の中で一生懸命目標もったりすれば、障害も持った人たちでも、がんばることができる伝えていかなければならないと思うので、やっぱり相互の理解だったりとか、少しずついいほうに成長していくような刺激が与えあえたら、すごいすてきだなと思います。



子どもたちとの写真

日本の子どもたちの反応は？

集中して僕の話聞いてくれています。お見せしたいぐらい。日本に帰ってきたら、是非学校で見てもらいたいぐらいです。1年生から6年生まで参加するケースがあるんですけど、1年生が90分の授業についてきますから。最後まで。先生たちが驚くんですよ。ここは本当にすごいなあ。食い入るようにアフリカの画像とかを見るんです。知らないことを知れて、あきらかに衝撃を受けながらも、しっかり受け止めてくれていると思います。将来にわたってなんか彼らのいい影響になったり経験になったらいいなあと思います。だからやりがいがあるし、伝えなきゃいけないと思うし、走り続けられないと思いますね。

自分が行動しないと

事故する前はちょーネガティブで、ちょ～いやなやつだったんです。人がやってることを応援もできないし、人を認めたりするようなタイプじゃなかったんです。でも、お灸をすえられたというか、事故で車いすになったのかなって今思うんです。車いすになったときに、いきなり歩けた人間が歩けなくなって何もできない状態になって、人からサポートをえないと、外にも出れない時もあったりして、日本でいながらずっとどんと底辺の底辺の底辺におこった経験というのがまず大きいです。僕は常に思っているんですけど、一番下のところにおこた人間なので、そこは絶対に忘れないようにしようと思っていて、いろいろな人に助け徐々に自分でもいろいろもらったりサポートしてもらったりして、なことができるようになっていったので、今までの経験はやってきてよかったと思うし、自分が経験したことを伝えていくほうが相手にも伝わると思うんです。もともとの性格が好奇心があったと思うんですけど、いろいろなことができるようになったことが楽しかったの

で、その楽しさを伝えていけたら、みんな楽しくなるかなって思うんです。



一緒にプレーしている様子

自分は一番できないところから、こんな感じでやっていったらできたんですよ。僕は特別じゃなくて、みんなと一緒になんだよっていうふうな目線で見てももらえたらうれしいですね。いろいろな人と関わるなかで、ちょっとずつ成長できて、今少し自分らしく生きられるようになったんです。だから、みんなもできるっていうふうに伝えていくことができたらいいなって思います。そのためには、まず自分が行動しないといけないし、行動しているとこところを見せないといけないと思います。まず自分がやって見せることが、一番親近感をもってくれると思うし、共感が得られて、ついてきてくれるんじゃないかなって僕の中では思ってるんですけどね。



神保さんありがとうございました！！

セネガルのおはなし（おまけ）

セネガルはどこ？



セネガルは、西アフリカに位置しています。
雨季と乾季があり、3ヶ月ほどしか雨は降らないです。3月4月、7月8月は、内陸部、北部は40度以上にもなります。
寝れないくらい暑いです！！

セネガルの国旗は？

【セネガル共和国】

緑は「農業と希望」

黄色は「富と資源」

赤は「独立の苦難と尊い血と犠牲」

星は「アフリカの自由のシンボル」

3色で、団結、民主主義、平等を現す

1960年にフランスより独立



セネガルのご飯は？



チェブジェン赤

チェブジェン白

「みなさんはどの料理を食べたいですか？」

有名な料理は、「チェブジェン」です。「チェブジェン赤」と「チェブジェン白」があります。赤はトマトが入っています。セネガル料理は、チェブジェンだけではありません。いろいろな料理があるんです。ご飯を油で炊いたものや、白ご飯に炒めたものをかけたもの、それからチェレ（トウジンビエのクスクス）なども食べます。刺すような日差しと暑さですが、中庭で食べるセネガル料理は最高です。セネガルのお昼時間は午後2時頃です。少し遅く感じますよね。でも、家族が多いセネガルでは、みんなの料理を作るのに、時間がかかるんです。休みの日は、家族みんなでご飯を食べます。作ってくれた人への感謝、ご飯を頂けることへの感謝をことばにして、みんなで1つのプレートを囲みながらご飯を食べるんですよ。さあ、めしあがれ☆（柚原）



かつどう ほうこく

オンラインイベントセミナー

WITH PEERでは、2020年4月以降、いろいろな機会
でオンラインイベントを主催、共催、協力してきました。
今後もセネガルの魅力や私たちの活動を様々な場と機会を
通じて発信していきます。

その他、皆様からの講演のご依頼等も承っておりますので、
HPよりお気軽にお問い合わせください。

2020年12月
【オンライン/共催】

「障害当事者によるスポーツを通じた国際協力」
～神保康広氏（元青年海外協力隊（短期派遣）、
車いすバスケットボールパラリンピアン）のマレーシアでの活動事例～

2021年6月
【オンライン/共催】

WITH バオバブの会さん
「セネガル大使館後援 オンラインチャリティ企画」
～本格的なセネガル料理～
（マフェ）を楽しく作りながらもっとセネガルを知ろう！～

2021年7月
【オンライン/協力】

茨城県ユニセフ協会主催
「スポーツを通じた国際協力 連続セミナー」
第2弾パラアスリートと見てみよう!～アフリカとスポーツ～

2022年4月
【オンライン/協力】

A-GOAL、Bokk Jambarr共催
「車いすバスケットボール選手元日本代表の神保さんと行くセネガル」
第1回

2022年5月
【オンライン/協力】

A-GOAL、Bokk Jambarr共催
「車いすバスケットボール選手元日本代表の神保さんと行くセネガル」
第2回

2022年6月
【オンライン/協力】

A-GOAL、Bokk Jambarr共催
「車いすバスケットボール選手元日本代表の神保さんと行くセネガル」
第3回

サポーター募集

支援する

私たちの団体名「WITH PEER」の「PEER（ピア）」を辞書で引くと、
(年齢・社会的地位などが)同等の人、同輩、友達という意味が載っています。

そこから派生して「障害当事者」という意味でも使われていますが、
私たちは「PEER」に、「共に体験し、お互いを共感的に理解し、
学び合う当事者/仲間/みんな」という意味を込めました。

個人の属性（例えば、機能的な障害の有無、性、国籍、民族、社会的地位等）
によらず、1人ひとりが「障害ってなんだろう」「共生社会ってなんだろう」と、
共に学び、行動していきたいと思います。

私たちとともに、セネガルの人々の「PEER」になってください。

応援する

当会の活動を応援いただける方がいらっしゃいましたら、
ご寄付として以下の口座にお振込いただくとともに、
個別にご連絡ください。E-mail: info@withpeer.org

振込先：みずほ銀行 吉祥寺支店 (246) 普通3105874
名義：WITH PEER (ウイズ ピア)

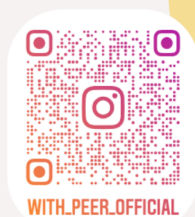
WITH
PEER



WITH PEER
Web Site



Instagram



年間サポーター（賛助会員）として応援する

皆さまからの会費は、WITH PEERの活動全般を支える資金となります。
活動理念に共感し、応援してくださる方なら、どなたでも入会できます。

※ただし、正会員とは異なり、総会での議決権を持ちません。

特典

- ・ 年次報告書（年1回）
- ・ WEBマガジン（年2回）
- ・ ガラス絵職人によるセネガル絵コースター（年1回）
- ・ イベントでの特典があります
- ・ 参加費の割引

振込み方法

- ・ 入会金：なし
- ・ 年会費：1口10,000円からお振込ください。
(なお、団体又は法人の方は5口からお振込ください。)
- ・ 入金時期：随時受付中
- ・ 振込先：みずほ銀行 吉祥寺支店 (246) 普通3105874
- ・ 名義：WITH PEER (ウイズ ピア)
- ・ 連絡先：info@withpeer.org
(お振り込みとともに、担当までご連絡ください。)